

News Letter

巻頭エッセイ

どんぐり ゴロゴロ



コナラ

笑顔が キラキラ

茶色くて、コロコロ転がって、秋になるとたくさん集めてしまう… 子どもたちが大好きなどんぐり。誰もが幼いころ、ポケットいっぱい集めた思い出があるのではないのでしょうか？

それは昨年のこと。ちいかんが指定管理をしている大阪府の深北緑地で、私は秋の植物をテーマにした自然観察会を企画することになりました。常駐スタッフと相談し、テーマは「深北緑地にたくさん来てくれる、就学前の子どもたちも楽しめるどんぐり」に決定。

「時間が長いと飽きてしまうから15分くらいのプログラムで」「来た人から順次スタートするようにしたらいいのでは？」アイデアはどんどん膨らみます。小さい子ども、楽しいだけではなく何か一つは覚えて帰ってほしい！そこで、「“どんぐり”とひとくりに呼んでいるけれど、実はいろんな種類がある」ということを知ってもらおう

と決め、スタンプラリーのスタンプの代わりに本物のどんぐりを、種類を見分けて集めていく、「どんぐりラリー」というプログラムを一から作りました。

見分けるための大ヒントは、「まんまるとんぐりでくりんくりんな帽子」のクヌギに「しましま帽子」のアラカシ、コナラのはうろこ模様…「似顔絵」入りの台紙も完成です。

そしていよいよ当日、昼下がりの公園。あるわあるわ！どんぐりがゴロゴロと！いるわいるわ！拾いに来た子ども達が！

たくさんの子に急かされながら、どんぐりラリー開始です。

「これじゃない…これも違う…」子どもたちは目的のどんぐりがなかなか見つからなくても諦めず、林の中を歩き回り、小さな手で一生懸命探します。そして、お目当てのどんぐりが見つかった瞬間の、パツと輝くうれしそうな顔！これだからもう、観察会はたまりません。

「これとこれ、お帽子(殻斗)が違う！」
「こっちのどんぐりはまんまるやけど、こっちのは細長いよ！」

子どもたちは本当によく見ていて、たくさんの気付きを伝えてくれます。

「よく気付いたね！」

「知らなかったわー！」

「成ってる木によってどんぐりの形が違うやね。」

子どもたちの感性と観察眼に圧倒されつつ、保護者の方々も負けじと一緒に勉強です。

楽しい時間はあっという間に過ぎていきます。大盛況の中、イベントは終了したのでした。

「どんぐりラリー、今年もお願いできますか？」「喜んで！」二つ返事で引き受けます。子どもたちの輝く笑顔にまた会いに行けると思うと、今から楽しみでなりません。

(大阪支社 自然環境研究室 林 伸子)



クヌギのどんぐり

目次

エッセイ どんぐりゴロゴロ 笑顔がキラキラ ————— 1

業務紹介 生きものたちの復興を見届ける ————— 2
「しおかぜ自然環境調査」

Report 私がわな猟の狩猟免許を取得するまで ————— 4

連載漫画 びっくり！目からウロ子ちゃん ——— 6

Report I WMC参加報告 ————— 7

Information ちいかん Presence の広場 ————— 7

ある日の フィールドノートから 予期せぬ出会いと再会と ————— 8



生きものたちの復興を見届ける しおかぜ自然環境調査

東北支社 自然環境研究室 津田 朋香
千布 拓生

1992年の地球サミットで生物多様性条約が結ばれてから、20年以上の歳月が経ちました。日本は「21世紀環境立国戦略」の下で、地球規模での環境問題の深刻化を「地球温暖化の危機」、「資源浪費の危機」、「生態系の危機」という3つの危機としてとらえ、持続可能な社会を構築するために、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会という3つの社会目標を提案しています。

数年前に参加した生物多様性保全に関するシンポジウムでは、この3つの社会目標のひとつである「自然共生社会」を実現するために私たちができる取り組みとして、以下の4つが紹介されました。

- 旬の食べ物を旬の料理方法で食べよう
- 生きものに目を向けよう
- 子どもと一緒に外に出よう
- 選択できる消費者になろう

旬の食べ物を食卓に取り入れたり、毎日目にする生きものを意識してみたりする生活は、とても素敵なことで、すぐに実行できるので、日常の生活に取り入れてみたいものですね。

行政や自治体などでは、生物多様性保全をするために、シンポジウムや自然観察会など、様々な取り組みが実施されています。ここでは、「生きものに目を向ける」ことに関連した、国内で実施されている生物多様性保全に関する取り組みのひとつとして、2015年度現在、当社が運営事務局をおこなっている環境省「いきものログ」及び「しおかぜ自然環境調査」について紹介していききたいと思います。

日本ではこれまで、自治体による自然環境調査や市民参加型生きもの調査、自然保護団体主導の自然観察会など、様々な場面で生きものが調べられてきました。しかし、それらの情報を、個人が入手し活用することは、必ずしも容易ではないのが現状です。

「いきものログ」は、全国の生物情報を共有化し、一元的に収集・提供するインターネットのシステムです(図1)。パソコンやスマートフォンを使って生きものの情報を検索することができます。まずはユーザ登録をする必要がありますが、ユーザ自身の観察記録を報告し、蓄積することも可能です(図2)。団体として登録し、オリジナルの活動による調査結果を報告・蓄積することもできます。



図1. いきものログトップページ <http://ikilog.biodic.go.jp>



図2. いきものログでの生きものデータの登録操作の例



環境保護団体「はげっ子倶楽部」と実施した「しおかぜ自然環境調査」普及のための観察会

左：松川浦大須海岸の湿地の様子

下：海浜植物の特徴や観察ポイントを解説



「いきものログ」では、市民参加型の調査として「しおかぜ自然環境調査」を実施しています（報告するためには「いきものログ」のユーザ登録が必要です）。これは東日本大震災の生きものへの影響を調べるため、震災の影響を大きく受けた東北太平洋沿岸地域を中心に、震災前後の全国の生きもの情報を集めているものです。イノシシ、キジ、アキアカネ、アサリ、ハマダンゴムシ、ハマエンドウなど、対象となる20種類の生きものについての目撃情報を報告し、インターネット上の地図に示すことで、対象種がどこに生育・生息しているか、分布等の状況がどのように変化しているかなどを把握することを目的としています。

「しおかぜ自然環境調査」の普及を目的に、今年度は様々な活動団体と連携し、一般市民等を対象とした観察会をおこなっています。

第1回目の観察会は、2015年8月22日、松川浦（福島県相馬市）の大須海岸で実施しました。震災前はクロマツの海岸林が分布していましたが、津波によりそれらは破壊されました。現在、海岸林の再生工事が進みつつあり、近傍には地盤沈下や津波によって土地が削られるなどして

生じた湿地が点在しています。今回はその湿地で、昆虫や植物を中心に生きものの観察をおこないました。

観察の結果、「しおかぜ自然環境調査」の調査対象種としては、アサリ、アシハラガニ、ノスリ、ツバメ、ハマヒルガオ、ハマエンドウなどを確認することができました（図3）。調査対象種以外でも、数種の環境省レッドデータブック指定植物が確認されましたが、これらは津波の攪乱等により埋土種子が発芽・生長したと考えられました。自然が持っている再生ポテンシャルに圧倒された出来事でした。

「しおかぜ自然環境調査」は、様々な地域の多くの方々に参加していただき、情報を蓄積していくことで、みんなで生きものの分布状況を地図に描いていくものです。多くの方々に協力をお願いしたいと思います。

年内の観察会は、今後も井土浦（宮城県仙台市）、牡鹿半島（宮城県石巻市）、種差海岸（青森県八戸市）などを予定しています。震災後の自然の回復力を目の当たりにすることができるかもしれません。「いきものログ」ウェブサイト内等で告知する予定ですので、機会がありましたらぜひご参加ください。



図3. 観察会で確認された「しおかぜ自然環境調査」対象種の一部



私が わな猟の 狩猟免許を 取得するまで

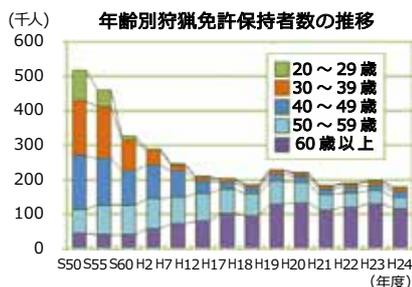
野生生物管理事業部 唐橋 あかり

この頃はテレビ等で、女性の狩猟者を意味する「狩りガール」という言葉を聞いたり、シカ肉など狩猟で捕らえた野生鳥獣を使ったジビエ料理に人気が出てきたりと、近年のアウトドアブームの中で狩猟に関心が高まっているように感じます。

実際そういった方々や大学の野生動物学関連を研究している学生など、短期的に見れば狩猟免許を取る若い人が少しずつ増えているそうです。

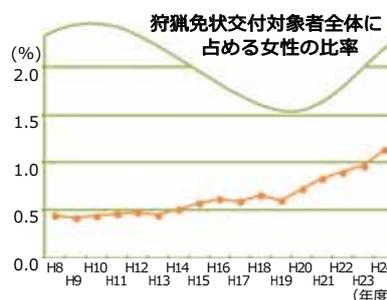
しかし、一方で狩猟者全体の数の減少や有害駆除の担い手不足が深刻化しているのも現状です。

こちらのグラフは全国の狩猟免許所持者数の推移を表しており、黄緑色が20代、紫色色が60代以上の人数を示しています。※1



狩猟免許保持者数は昭和50年代の半分以下に減少し、年齢構成も60代以上の割合が年々高くなっていることから、高齢化が進んでいるといえます。

また女性の免許取得者は増加していますが、平成24年度の狩猟免許交付者約18万人のうち、女性は約2千人。全体の1%程度でその割合は非常に低く、狩猟は女性にとってはまだまだ縁遠い世界といえます。※2



私が狩猟免許を取得したのは「ちいかん」入社前のことになりましたが、それまでも地方で生き物に関わる仕事をしてきたことから、自然資源の持続的利用や鳥獣被害の予防のために少しでも役に立てばいいな、という気持ちで、わなの狩猟免許を取ってみようと思ったのです。

では、そんな私が狩猟免許を取得するまでについて簡単にお話したいと思います。

狩 猟をするには、時期、場所、方法や捕獲できる動物が法律で定められており、更に狩猟免許と狩猟者登録が必要となります。狩猟免許は猟法ごとに4種類に分かれています。

【狩猟免許の種類】

- ・第一種銃猟免許（散弾銃、ライフル銃）
- ・第二種銃猟免許（空気銃）
- ・わな猟免許
- ・網猟免許

試験を受ける際は、まずどの種類の免許を取得するかを決め、狩猟免許申請書と必要書類を自分の住んでいる都道府県の担当部局に提出します。2種類以上の免許を希望する場合はそれぞれ別の日に試験を受けることになります。

さて次は試験の準備ですが、試験にはどんな問題が出るのだろう、難しいのだろうか、どうやら技能試験もあるみたい…と分からないことだらけです。残念ながら、この時は自分の周囲に狩猟免許を持っている人がいませんでした。

しかし、そんな私のような初心者のための講習会を猟友会が開催していたので、さっそく受講しました。

【講習会の内容】

- ・鳥獣保護・狩猟の適正化に関する法令
 - ・鳥獣に関する知識及び判別
 - ・猟具の取扱い
- (銃猟免許を希望する場合は距離の目測等)

講習会は予想していたより人数が多く、全体で100人以上の方が参加していました。趣味の狩猟を目的とされている方以外にも、自治体の鳥獣対策関連の担当の方や、特に20代前半の受講者では大学で野生動物関連を研究されている学生さんが複数いらっしゃいました。中にはご夫婦で自給自足の生活をしたいと参加されている方もいて、本当にみなさん様々な目的を持って参加されていると感じました。

講習会では講義で説明のあった内容がさらに細かく書かれた「狩猟読本」が配布され、この他例題集も購入してきたため、知識試験の勉強はこの2冊を使って勉強するのが一番効果的かと思います。

技能試験についての対策は手元に猟具がなかったため、講習会時の写真や動画で見ながらイメトレです…。



イノシシ用の箱わな

「狩猟読本」と例題集。この2冊とイメトレがあれば、試験対策はばっちりです！

そんなこんなで試験当日。試験会場でも女性は少なかったのですが、講習会同様様々な方が集まっており、そこで情報交換をしていたり、特に若い人はなぜ免許を取るのか聞かれたりと割と和気あいあいとしていました。

講師の猟友会の方も、これを機に若者ハンターのネットワークができればと積極的に声をかけていました。

試験は、知識試験、適性試験、技能試験の順に進みます。

【狩猟免許試験の内容】

① 知識試験（選択問題）

- ・法令や狩猟免許制度等に関する知識
- ・猟具の種類や取り扱い等に関する知識
- ・狩猟鳥獣や狩猟鳥獣と誤認されやすい鳥獣の生態等に関する知識
- ・個体数管理の概念等、鳥獣の保護管理に関する知識

② 適性試験

- ・視力・聴力・運動能力（四肢の屈伸、拳手及び手指の運動等が可能であること）

③ 技能試験（①、②合格者のみ）

- ・鳥獣判別
- ・猟具の取り扱い等

※内容は免許の種類で異なります

まずは午前中に、知識試験・適性試験を受けました。この試験に合格した人しか 午後の技能試験に進めないのです。合格者の受験番号が貼り出され、自分の番号を確認し、午後の技能試験を一人ずつ試験官とマンツーマンで受けました。その後最終合格発表があり、終了です。

試験中は少し緊張もしましたが…



無事、合格する事が出来ました。

実際に狩猟を行うには、狩猟をしたい都道府県ごとに「狩猟者登録」を行い、狩猟税を納めます。

銃猟の場合はこの他に猟銃の所持の為の申請や手続きが必要になりますが、わなや網の場合は、これで猟具を入手し狩猟をすることができます。

わな免許で使用できる猟具は、くくりわな、はこわな、はこおとし、囲いわなです。上の写真はイノシシ用の箱わなです。

Challenge! 試験例題 ※3

問. 同じ科（仲間）の鳥獣だけを列記したものはどれか。

ア：アナグマ、ヒグマ

イ：ニホンジカ、カモシカ

ウ：タヌキ、キツネ

正解は最後のページへ！ →

私が所属している野生生物管理事業部では、業務で狩猟をしている方の捕獲現場に立ち会ったり、捕獲体制の整備の中で捕獲の名手に指導を仰いだりすることもあります。実際に獲物を捕獲できるようになるにはたくさんの経験と技が必要で、奥の深い世界だということが実感として得られてきたこの頃です。

一方で、猟師さんの減少や地域集落全体の高齢化などの社会的な問題も、差し迫った問題として実感しています。

やはり今こそ狩りガールとして活躍する時か、と思っています。

狩猟が一過性のブームとして終わることなく、地域の野生動物と向き合うことを生業とすることでこの国の生態系・食物連鎖の一部分を担っている人たちがいることを、多くの方に知っていただきたいですし、シカやイノシシなど増えすぎた野生動物を地域の資源として積極的に利用することを、意義あることとして世の中に広めていきたい。これからも、免許取得を通じて得られた知識や技術、日々の業務を通じて、多くの方々へ自然や生きものとのつながりを実感していただけるよう、努めていきたいと思います。

参考 WEB サイト

- ※1 年齢別狩猟免許保持者の推移：
環境省 HP 年齢別狩猟免許所持者数 <http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs4/menkyo.pdf> を元に作成
- ※2 狩猟免許交付対象者全体に占める女性の比率：
環境省 HP 鳥獣関係統計 狩猟免許交付状況 <http://www.env.go.jp/nature/choju/docs/docs2.html> を元に作成
- ※3 知識試験の例題：
環境省 HP 狩猟の魅力まるわかりフォーラム <http://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort8/> より引用

びっくり! 目からウロ子ちゃん

目からウロ子ちゃん 博士
 キノの巻
 知ったかぶり博士

見てください。博士え、白くてキレイなキノコですよ!

ウロ子ちゃん、そりゃ、猛毒のドツルタケじゃ、食べると死んじゃうぞよ。ひいひい...

大丈夫。触ったくらいじゃ、なんともやうんば。ムホホ...

博士え、そういえばキノコって「木の子」なんですかあ?

アレが、アンの父親のよ。あーい、100%!

No!キノコは「菌類」植物ではない。カビの仲間なんじゃ。

そもそもキノコの本体は「菌糸」。地上の傘状の部分は「子実体」というんじゃ。

いつも食べている部分は植物でいえばまあ、「花と茎」じゃな。

ナント!キノコ、花の部分も食べているの!?

じゃあ、今度から八百屋さんではシイタケの子実体をしてください!!

はあ?

あ、言う方が正しいんですね? 博士。

ま、そりゃ、そうじゃがいやミながキと思われちゃうろう。ムホホ

山で見るキノコの多くは菌根菌(キンコンキン)という、樹木の根と共生してある。例えばアカマツとマツタケ。

他に木材や落ち葉を分解する腐生菌なども大事な存在じゃ。

もしこれらの菌がいなかったら森はたちまち枯れ木、葉っぱ、生きものの死体だらけになってしまう。

炭水化物
菌糸 ← 根
水・リン

菌糸 & 根
共生関係

キノコカン?

ササクレヒヨタケ

サルノコシカケ

じゃあ、キノコ(菌類)が森を管理していると言えるわけですか?

それだけじゃなく菌も植物もそして、われわれ動物も互いに循環関係で成り立っているんじゃな。

そうかなあ? 私たち動物がキノコの何に循環してるの?

ムホホッ、例えば動物によって噛み砕かれた木とか毛虫が葉を食べてフンにして出すとかね。

え!? それがキノコに何だぞというの?

フム。さっきの腐生菌だけではとても分解が間に合わないんじゃな。

ウロ子ちゃんや他の生きものがお腹で植物を消化してウンチまでにしてくると菌類がその先をモレツツに分解し易いわけじゃ。

え! 毛虫のウンチでさえも木の大事なサイクルのひとつなんですよ!

いやあ、ホンニよくできてるもんじゃのう。

博士え、それには菌類でもっとメジャーに扱われてもいいんじゃないですか?

そのとおり! 自然界で重要な位置をしめてる菌類を見直すべきじゃ。

わしがもちっと若かったらう、大発見も夢じゃないのに、ホント惜しいのう。

新薬の開発に新キノコ栽培etc. んまう地位も名誉も金もか、ホッポロじゃ

あ、大変です博士! 菌糸に犯されてますよ。腹裏妄想... ハラハラモウソウ外に犯されてます!

You are Great!

Dr. N

え: 飯塚要

第5回 国際野生動物管理学会 IWMC 参加報告

2015年7月、札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)において、第5回国際野生動物管理学会 (International Wildlife Management Congress : IWMC) が開催されました。

世界各国から野生動物管理に携わる研究者や企業が集い、4日間にわたって最新の研究成果発表が行われました。

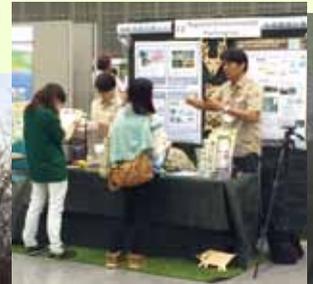
野生動物管理の担い手不足や野生動物の都市部への出没等、各国が置かれている現状や人と野生動物との軋轢の歴史等も紹介され、国は違えども多くの共通した課題を抱えていることを実感しました。

ちいかんからも数名が参加し、野生動物と交通に関するシンポジウムでの発表、野生動物の生息密度の推定、植生への影響に関する発表などを行いました。

鳥獣被害対策商品のECサイト「鳥獣被害対策.com」の出展ブースでは、普段なかなか手に取っていただくことのできない獣害対策用品の実物展示や、獣害対策コンサルティングの事例紹介等を行いました。

当社の取り組みを国際的な場でアピールでき、様々な国からの参加者に興味を持っていただく良い機会となりました。

(野生動物管理事業部 久野 航)



Sapporo

この秋発足！ 環境分野のUAV活用を探求する バースアイ・リサーチ研究会

ちいかん Presenceの広場 ニュースレター編集部

UAV(無人航空機)は、危険な場所や保全上の理由で人が立ち入ることができない場所の観察・撮影が可能で、自然環境分野においても大きな可能性が期待されます。

しかし一方でUAVに関連する事件・事故等が散見され、安全に飛行させる技術や体制の確立が求められています。

このような背景により、自然環境分野におけるUAVの活用技術と安全運用普及を目的として、4社協同により「バースアイ・リサーチ研究会」を設立しました。

今後、安全飛行のための技術や体制の早急な確立や、活用技術の開発・普及啓発を推進してまいります。

研究会参加企業(五十音順 2015.10.1 現在)
株式会社エコリス(宮城県仙台市)
株式会社環境アセスメントセンター(静岡県静岡市)
株式会社スカイトラック(東京都港区)
株式会社地域環境計画(東京都世田谷区)

※ 自然環境分野におけるのUAV活用に関するご相談は最寄りの支社までお問い合わせください。



東海地方で分布を拡大している
タイワンタケクマバチ
(*Xylocopa tranquebarorum*)



トゲアリの巣の近くで産卵の機会をうかがう
ケンランアリスアブ (*Microdon katsurai*) の
メス。体に独特の金属光沢をもっています。

トゲアリ
(*Polyrhachis lamellidens*)



「おお！こげな虫がおるげな…！」
福岡から名古屋に到着した翌朝、新
居の敷地内で全身黒色の大きなハ
チを見つけました。2015年4月、
名古屋支社に転勤して初めて目にと
まった昆虫が外来種のタイワンタケク
マバチです。

九州支社では、出版されたばかりの「ハ
ナバチ図鑑」を見ながら、「こんなに大き
な外来種もいるのか」と感心したもので
すが、まさか、簡単に出会えるとは考え
てもいなかったので驚き、併せて少しば
かりの不安が頭をよぎりました。「名古屋
市近郊の住宅地まで入り込んでいるとな
ると、かなり広がっているのではないだ
ろうか？」

心配した通りで、「愛知県移入種対策ハ
ンドブック」によれば、タイワンタケク
マバチは2006年に愛知県と岐阜県から
初めて記録されてから、静岡県にも分布
を拡大し、2011年には兵庫県と岡山県
でも記録されたとのことでした。

現在では名古屋支社の周辺でもアカメ
ガシワや、植え込みのアベリアの花を訪

ある日のフィールド・ノートから

予期せぬ出会いと 再会と

れる姿が観察できます。名古屋市東部は
緑地も多く、在来種のクマバチの活動も
活発ですが、今後餌の奪い合いなどで両
者の関係はどうなっていくのか、注視す
る必要があります。

一方で、思わぬ再会に興奮すること
もあります。静岡県浜松市に行った時のこ
とです。樹林を歩いていると、多数のト
ゲアリが見られました。赤褐色の胸部に
大きく曲がったトゲをもつ特徴的なアリ
で、環境省のレッドリストでは絶滅危惧
Ⅱ類に挙げられています。九州でもたま
には見かけていたのですが、ここではい
たるところで行列をなして歩いているの
で驚きました。

「こげえトゲアリがおるなら、あれも
おるんやなからうか…」このとき、ふと頭
をよぎったのは期待でした。アリの行列
を目で追い、とあるアベマキの樹上を見

たところ、「やっばあおった！」思
わず声をあげてしまいました。その
主はケンランアリスアブ。トゲアリ
の巣に寄生する大型のハナアブで
す。栃木県でこの虫に出会ったのが
1996年ですから、19年ぶりの再会です。
私は何とも言えない昂揚感に包まれてし
ました。

ケンランアリスアブは近年、トゲアリ
の減少傾向に伴い衰退しつつあると危惧
されています。当日見つけられたのはこ
の1頭だけなので、この森でも決して多
い昆虫ではないのかもしれませんが。

昆虫は人の目につく生き物としては最
大の分類群です。私は北海道から九州ま
で色々な土地で暮らしてきましたが、実
際に見た事のない昆虫はまだたくさん
います。これからも様々な初対面が待っ
ており、めったに会えない昆虫ともどこ
かで再会できるかもしれません。そんな
期待をしながら、その時々のお会いを楽
しんでいきたいと思います。

(名古屋支社 自然環境研究室
廣永 輝彦)

News Letter No. 38 2015年10月

【発行】……………株式会社 地域環境計画

- 発行人……………高塚 敏
- 編集 ……中山香代子・釣谷佳子・岡崎康代・福岡由佳・永沢敦子

素朴な疑問やご感想などお寄せください。お待ちしております。
E-mail : nl-info@chiikan.co.jp

キタコブシ、エゾヤマザクラにライラック… 札幌のまちを舞台に
目まぐるしくバトンが渡った花のリレーもあつという間に終盤を迎え、
今はもう、街路樹のナナカマドが真っ赤な実をつけています。ついで
む小鳥の群れには時折珍しい旅の途中の鳥たちが交じることもあり、
つい気になりますが、ナナカマドの花言葉は「慎重」「安全」だとか。
鳥たちよ良い旅を！我々人間も安全運転でまいりましょう。(釣谷佳子)

■本 社 ■東京支社

■コンサルタント事業部 ■野生生物管理事業部 ■プロダクト営業部

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 2-22-3 NDSビル
TEL : 03-5450-3700

株式会社
地域環境
計画 生きものと共生する
地域づくり人づくり
ちいかん

■北海道支社 TEL : 011-717-8001
■東北支社 TEL : 022-772-6651
■名古屋支社 TEL : 052-760-2822
■大阪支社 TEL : 072-684-3182
■九州支社 TEL : 092-833-5270

http://www.chiikan.co.jp

